平成24年度　シラバス	学年・期間・区分	5年次 ・ 前期 ・ B群
	対象学科・専攻	土木工学科
河 川 工 学 (River Engineering)	担当教員	西留　清（Nishidome , Kiyoshi）
	教員室	都市環境デザイン工学科棟３階（TEL：42-9119）
	E-Mail	nisidome@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 ／ 単位の種別 ／ 単位数	講義・演習 ／ 学修単位〔講義Ⅰ〕／ 1単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（100分）＋自学自習（80分）〕×15回	

〔本科目の目標〕　地球環境・地域社会に位置付けられた河川に関する理解と技術を学ぶ。このため、川を治水・利水・環境の3つの観点から、実際の川に足を運び、リポートを作成、総合学習を行う。

〔本科目の位置付け〕　数学･物理学･情報処理･地学･環境生態学･水理学･計画学･歴史学･施工学･環境工学等との関連がある。

〔学習上の留意点〕　河川行政の中で、幅広い視野･土木技術者としての倫理、地球環境問題における河川を対象にした総合的学習を行う。学習の内容をよく理解するために、毎回、予習や演習問題を含む演習として、100 分以上の自学自習が必要である。講義時に提出すべき課題が与えられた場合、2時間程度の復習に取り組み、レポート提出を行うこと。疑問点があれば、その都度質問すること。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 河川と社会	4	□ 文明と川、地勢を見る、河川の管理が理解できる。 □ 演習問題を通して理解を深めることができる。	左記各項目についてテキストを使って予習をしておく。
2. 河川技術の基礎	4	□ 流出解析、計画高水の水理が理解できる。 □ 演習問題を通して理解を深めることができる。	
3. 川と治水	6	□ 水害の変遷、治水対策の変遷、治水対策の手法が理解できる。 □ 演習問題を通して理解を深めることができる。	
--- 中間試験 ---		1～3の授業項目について達成度を確認する。	
4. 川と利水	8	□ 川の水利用、ダム、貯水池の水質水理が理解できる。 □ 演習問題を通して理解を深めることができる。	左記項目の内容について，参考書等を読んで概要を把握しておく。
5. 川と環境	6	□ 河川環境とは、河川の水質、魚が住む川、植生のある川へ、多自然型川づくりが理解できる。 □ 演習問題を通して理解を深めることができる。	
--- 期末試験 ---		4と5の授業項目について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2	試験において誤った部分が理解できる。	

〔教科書〕　大学土木・河川工学　玉井信行著　オーム社

〔参考書・補助教材〕

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕　3-c

〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕　3-3

〔JABEEとの関連〕　(d)(2)a)

Memo